

マンガ版「レイヤード」第1話シナリオ

■宮下公園

野外フェスらしき音楽イベントが行われている広場、彩る様々なAR。木々の間を川が流れ、地面の上を熱帯魚が泳ぎ、光輝く記号のエフェクトが舞う。ステージ上では、純白の羽根を生やした女性アーティスト。

客席側の人々が手を振ると、ステージ上に光の波紋が広がる。

アーティスト「デビュー以来、初めてのレイヤードライブです！ 皆さん、今日は楽しんでいってくださいねー！」

皆、ステージにしか意識が向いていない。観客の片隅。ARの雲の下で、うずくまっている男、御岳。

その腕の中で、彼の同僚である七海が腹部から血を流し、命尽きかけている。

御岳「騒ぐな……騒ぐのをやめてくれ。仲間が死にそうなんだ、静かにしてくれ」

御岳らの声を聞く者はいない。

エフェクトやステージを睨み上げる御岳。御岳「人が死んでいるんだ、見えないのか！

この幻レイヤードを消してくれッ！」

声は空しく響き、ステージは盛り上がり続ける。

■スクランブル交差点

女性と見紛う美貌の青年マオが、交差点の中心で、冷淡に町を眺めている。

マオN「今やネットワークは、色づく風である」

老若男女、行きかう人々。

信号待ち中の車、横断歩道がない簡素な車道。

歩きはじめたマオ、その瞳が妖艶に輝く。

マオN「万能の百科事典『wiz.dom』がなければ、我々はその遍歴——いや、物語を辿

ることさえ不可能だ」

ARのテキストボックスが、空間に現れる。以下のTは、百科事典 **wiz-dom** から参照した、テキストボックスの表示。

T「項目…レイヤード。概要から引用。『センサーネットワークの普及によって実現した【**攪張現実**】、**拡張現実**の発展型。及びユビキタスプラットフォームの総称』」

キューブ状エフェクトが拡がり、AR歩道や植物のオブジェクが背景に重なる。地面には波紋が広がり、空にはAR標識。

T「項目：Act。概要から引用。『個人の生活支援を前提に、**wiz-dom** からDLされる、キャラクター型人工知能』」

道行く人々の隣には、様々なActの姿。T「項目…ヴァルナカウンター。概要から引用。『コンテンツやアカウントを利用者が相互監視し、人権を含む統括的な規制を行うシステム。及び**社会制度**』」

Actの頭上に、ヴァルナカウンターのゲージが表示される。

マオN「世界は可視化された願いで、溢れかえった。その勢いはあまりにも急激であり、無慈悲ですらあっただろう」

通りがかった女子校生数人が、掌の上に浮かぶARモニタを見ている。

彼女達の指先にはARの『×』。

『×』をモニタに向ける女子高生。

モニタに映っているのは、ギターを握るサワカ、その顔や胸に『×』が貼り付く。横目にサワカを眺めるマオ、愛しそう。

マオN「これから語られるのは、流れに翻弄されて弾かれた——負け犬達の物語」

#### ■道玄坂

道の脇、制服姿のサワカが、掌の上にARモニタを表示している。

サワカ「うえー、また上げられてる」

SNSらしきウィンドウ、サワカの風呂上がりバスタオル姿画像。

タップすると、サワカが歌っている姿がARで動画のように、立体表示される。

『自意識過剰w』『また自撮かよ』『音程外しすぎ』などのリプライ、コメント。

サワカ「ぐぐ、余計なお世話だったのに……」

『へっけ』来てー!」

サワカの肩に水滴が落ち、そこから小型のカエル型Act『へっけ』が現れる。

へっけの腹部にはモニタがあり、サワカのアカウント画面、ヴァルナカウンター  
のゲージが表示されている。

ゲージ、リアルタイムで長くなっていく。

へっけ「削除基準スレスレよ、サワカ」

サワカ「見ればわかるよ。なんとかできないの、これ？」

へっけ「一度提示されたUNPLは、ACTの力じゃ取り消せないわ。打つ手無し」

サワカ「ちえ。人間のシヤカイクツドウをサ

ポートするのがACTの仕事(しょー)」

サワカの剣幕に振り返る、周囲の人々。

背後から現れた無骨な手が、サワカの口を抑えこむ。

サワカ「!?!」

男の声「大声を出すな。悪目立ちしたら、またカウンターが上がるぞ」

サワカ「(振り向く) んぐぐ。」

サワカの背後、御岳が立っている。

御岳「七羽サワカ。数カ月前から何者かに、

実生活をネット上で晒され、表明されたUNPLの値は、アカウントデリート対象寸前」

手を離し、警察手帳を提示する御岳。

サワカ「あー、待ち合わせしてた……」

御岳「警視庁の御岳だ。今からお前の事件を担当する」

#### ■御岳の車内

運転している、サングラスをかけた御岳。

現代のものとさして変わらない外の車道、

サングラス越しに様々なAR標識が重なって見える。

後部座席、へっけを肩に乗せ、脳天気  
に運転席まで顔を出しているサワカ。

さわか「御岳さんって銃とか持ってないの？  
イマドキの警察ってちゃんと都民を守って  
くれるの？ ACTはごうというのが好み？」

御岳「……レイヤード社会の健全は、コンテ  
ンツの相互監視システムによって守られて  
いる。それがヴァルナカウンターだ」

フロントガラスの一部がモニター化。  
いかにも不快なグロ画像や過激な児童ポ  
ルノ然とした画像、その下に複数の『X』  
が表示されている。

御岳「こいつは他人やコンテンツに、不快AD  
NPLVを表明できる。その数が閾値を超える  
と、システムがそれを削除するわけだ」  
大量の『X』に覆われた画像が、次々と  
消えていく。

サワカ「刑事って相棒と行動するんでしょ？  
そういうのバディって言うんだよね。バデ  
イどこ？」

御岳「聞け！ 被害者はお前だろうが」  
サワカ「この世界じゃ人に嫌われたら、作品  
ごと消されるって話でしょ。誰でも知って  
ますって」

御岳「話すのがセオリーなんだよ。で、お前  
は発信した記憶がない自撮りデータや楽曲  
動画で、UNPLを押しされちまったんだな」  
サワカ「そう、見てよこれ。投稿してた曲が  
どんどんデリートされてるんだよ？」

へっけの腹部モニタ、『削除済み』と書  
かれたいくつもの動画ウインドウ。

御岳「楽曲だけならまだいい。アカウントを  
削除されたら、今の社会はお前を人間とす  
ら扱わなくなる」

サワカ「ひどいよね。あたしになんの恨み  
があるんだろね、ミタケイジさん」

御岳「雑に略すな、御岳でいい。憶えがなく  
ても恨まれるチャンスはいくらでもあるさ」  
車が住宅街へ入っていく。

シニカルな視線で、町を眺める御岳。

御岳「レイヤードは、人間のどんな感情も可視化しちゃう夢の技術だからな」

デバイスを通さないと見る渋谷の町並みは、どこか空虚。

■マンション二階・サワカの部屋

入ってくるサワカと御岳。

サワカ「どうぞ、なにもない部屋だけど」

御岳「なかつたら捜査が詰まる」

御岳、室内を見回す。

サングラス越しに、ARのポスターや、可愛らしいインテリアがちらつく。

御岳「盗撮や盗聴の被害に遭うのは、だいたいこの部屋にいるときなんだな？」

サワカ「あと、買い物中も盗撮されたよ」

へっけの腹部モニタには家具屋のベッドで爆睡しているサワカ、困っている男性店員の姿も写り込んでいる。

御岳「警戒心ゼロだな。家具屋に謝れ」

サワカ「ちゃんと買ったんだからいいじゃん」

家具屋のものと同じベッドに座るサワカ。

サワカ「部屋の中じゃ、特にこれやっていると見られてるっぽいんだ。へっけ、サポよろしく」

へっけ「ほい。チューニングはお任せ」

サワカ、ピック型デバイスをかざす。

サワカ『シフトアップ・レイヤー！』

へっけの体が水滴状に変化、サワカの手元でARギターに変身する。

ベッドの上に立ち、ギターをかき鳴らすと、☆型のエフェクトなどが舞う。

サワカ「いいい、今日もいいオト視せるぜ！」

御岳「変身型ACTをエフェクターに使ってるのか。いい趣味だ」

サングラスを外す御岳、その視点のサワカはエアギターをしているように見える。

サワカ「(ムスっとして)人がステージ披露

してるのに、なんでデバイス外すかな」

御岳「あいにく派手な攪張現実は苦手だね。

というか見られるとわかってなぜ弾く」

サワカ「ACTがいるのに自分をヒョウゲンしないとか、生きる意味ないから」

御岳「答えになってねーよ。ACTはアカウントに紐づくただのAIだ。自分の意味まで預けるな」

サワカのクローゼットを開けている御岳、オープンなサワカは気にしない。

サワカ「御岳さん、もしかしてACT嫌？」

御岳「よくわかったな」

サワカ「うちの親もだから。ACT嫌いなのにレイヤード守るとか、どんなユーモアなの？」

御岳「ストーカーの正体に心当たりはあるか」

サワカ「答えになってねーよ。……軽くはね。たまーに、家の前に妙なヤツがいてさ。見かけたらずぐ出ていくんだけど……」

御岳「追いかけても、すぐに消えるんだろ。ま、普通には捕まらんだろうな」

サワカ「あ！」

サワカ、窓の外を指差している。

マンションの玄関前に、コートを羽織った男の影がうっすらと見える。

サワカ「あれあれ！ あいつだよ！」

御岳、サングラスをかけて目視。

コートの男、御岳と目が合う。

咄嗟に窓を開け、飛び降りる御岳。

サワカ「おお、ワイルド」

■同・入り口前

御岳「狩りの時間だ、ワン公」

サングラスに重なる『FACT GO』のAR表示。御岳の周囲に、UIのサークルが展開。

着地しようとする、その傍らの地面に波紋が広がり、魔法陣のような紋様となる。その中心から、人型のベナが生えるように出現。

ベナの顔は、冒頭で死んだ七海そっくり。

ベナ「私は『ベナンダンテ』だ、ミタケ」

ベナ、突進してコートの男に追いつき、フードを掴む。

焦る男の体に、わずかなノイズが走る。

ベナ「やはりACTか。安物だな」

御岳「抑えとけベナ。アンチドーターを使う」  
ハンドガン型デバイス『アンチドーター』  
を構えている御岳。

御岳「モード『アンチ・レイヤー』」

アンチドーターの上部空間に『Layered car  
bridge』のARガイドや照準が表示。

御岳、トリガーを弾く。

銃口から発射された光弾が、男に命中。

男「…!!」

グリッド状のARが男の体に刻まれる。

光に包まれた男、消えてしまう。

ベナ「釈明の余地もなしとは。容赦がないね」  
階段を駆け下りてきたサワカ、入口から  
出てくる。

サワカ「今のなに!? ACTを殺したのー?」

御岳「ACTを殺す手段は、ヴァルナカウンタ  
ーしか存在しない」

御岳、アンチドーターを眺めて。

御岳「アンチドーターの弾丸は、被弾したACT  
をサーバー——wiz-domから隔離して、『

一時保管場所』に送信するっただけだ」

サワカ「『解毒薬』アンチドーター?」

御岳「ああ、『矯正手段』アンチドーターだ」

サワカ「ふーん。こっちのイケメンは御岳さ

んのACT?」

御岳「一応な……ベナって呼んでいいぞ」

ベナ、無言でサワカを見つめている。

サワカ「手を振って」ベナ、おっすー」

サワカとリンクして、へっけも手を振る。

ベナ、サワカの手を取り、エレガントな

仕種で自分の口元に運ぶ。

ベナ「はじめまして、ヒト科の乙女よ」

サワカ「お、おう。よしなに」

キスするのかわと思いきや、ベナは恍惚と

指の臭いを嗅いでいる。

ベナ「実に芳醇な香りのアカウントだ。皮ま  
ではがして、じっくり味わいたい」

一瞬で冷めているサワカ。

サワカ「猟奇的なセクハラを受けていますが」  
御岳『設定』上どうしようもないんだ。スルーしてくれ」

御岳「ベナ、ACT主を探せ。そう遠くには行けていないはずだ」

頷くベナ、クンクン鼻を鳴らす。

ベナ「探すまでもないよ」

ベナの指差す先、電柱の影にサワカと同じ制服の女子校生、ユミが脅えている。

ユミ「ひっ……!」

御岳「あいつがストーカーACTのユーザーか」  
サワカ「ユミじゃん、おっすー」

御岳「あ?」

ユミ、泣き笑いながらサワカに抱きつく。

ユミ「サワカ〜!」

#### ■喫茶店

脅えるユミを囲むサワカ、御岳、ベナら。  
申しわけなさそうなユミ、その傍らには解放されたパーカー青年ACT。

御岳「こいつのファンクラスト、だど?」

青年ACTの胸には、『サワカコミュNo18』というARのタグも見える。

ユミ「は、はい……元々は同級生だけでサワカを応援してたんですけど、他にも結構な数が集まっちゃって」

御岳「サワカのヴァルナカウンター上昇を心配して、わざわざ交代で見張りをしたのか? ストーカーを見つけるために?」

頷くユミ。

御岳「まったく。自分もストーカー扱いされてまでこいつのエアギターを守りたいか」  
ユミ「さ、サワカのギターはエアギターなんかじゃないです! みんな、サワカの曲を楽しみにしてるんですからッ!」

呆れている御岳達だが、サワカは得意気。  
サワカ「どうよ? 派手な攪張現実にも一般層の需要があるんですよ」

御岳「威張るな、アーティスト気どり。その



プロぶった態度が反感を呼ぶんだ」

ベナ「アウトロー気どりの経験則だな、ミタケ」

御岳「(睨み)……ACTに俺の何がわかる」

ベナ「君も知らない、君のことがわかるよ」

険悪な雰囲気御岳とベナ。

サワカ「自分のACTとマジゲンカする人、はじめて見た」

御岳「人とACTの関係にもいろいろあるんだ」

サワカ「いろいろねー。あたしは助けてもらえればそれでいいけど」

御岳「仕事はこなすさ。サワカ、アカウント情報を表示しろ。ここ数カ月分のライフログまで見られるようにしてな」

サワカ「ん、こう？」

サワカが手元を動かすと、へっけの腹部にアカウント画面が表示。

ベナ、へっけを上からわしづかみにしてぐるりと回転させ、御岳に見せる。

サワカ「おい、プライバシーですって！」

御岳「どうせ晒されてるんだろうが……ふむ。

カウンターの急上昇はここからだな」

サワカ「へ？」

御岳「だいたいわかった。部屋に戻るぞ」

#### ■サワカの部屋

御岳、ベナ、サワカが部屋を見回す。

御岳「隠し撮りが行われるのは主にこの部屋で、外にいたACTは犯人じゃない。だとすれば、可能性がもっとも強いのは」

サワカ「つ、強いのは」

ベナ「犯人はこの中にいる、だね」

サワカ「……は？ え？」

御岳「部屋で演奏しているところばかり晒されるのは、相手が部屋にいるからだ」

サワカ「ACTって、人間のアカウントに紐付いてないと動けないんですよ。この部屋に他人がいるっての？」

御岳「そうなるな。さっさと見つけろ、ベナ」  
頷くベナ、歩き回りながらくんとサ

ワカの室内を嗅ぎだす。

サワカ「……どんなプレイですか、これは」

御岳「ベナは、レイヤードに染み着いた『攪張現実の匂い』を検索できるんだよ」

ベナ、ベッドを嗅ぐ。その鼻がピクリと動く。

ベナ「因果のニオイはこの奥だ、ミタケ」

御岳「サワカ、今日はソファで寝ろ」

御岳、ベッドから布団を下ろし、力任せに蹴り降ろす。

サワカ「わー！ 選り抜いたベッドなのに！」

ベッドの亀裂の奥、アクリルの小瓶が。

御岳、そつと取り出す。

それはホルマリン漬けの人間の親指。

サワカ「ゆ、指？ ACTの指じゃないよね」

御岳「生身の『アカウント』だ。犯人はこれを使ってこの部屋と重なるレイヤーに『認証』を受け、ACTを常駐させていたんだ」

サワカ「うええ、これと一緒に毎晩寝てたんだ……」

御岳「家具屋でも盗撮された、と言ったろ。

お前のストーカー被害がはじまったのはあの直後からだ」

サワカ「あそこに犯人がいたってこと？」

御岳「自分のアカウントを埋めたベッドを、

狙った相手に売ることができる人物は……」

サワカ「あ！ 店員さん！？」

サワカの回想、ベッドに寝転がる自分を

笑顔で見つめている男性店員。

ベナ「ミタケ。現れるぞ」

親指が突然、発光。

重なるリング状の光から、レンズの目を持つコウモリ型ACTが出現する。

その肩には『サワカコミュ No129』タグ。

御岳「よう、ストーカー。楽しんでるか」

コウモリACT、羽根を開き大音量で叫ぶ。

耳を塞ぐ御岳とサワカ、超音波のような

波紋とノイズが、室内のAR、ベナ、へ

つげに広がる。

混乱に乗じて、コウモリACTがドアをす

り抜けて脱出。

■マンション・廊下

部屋から飛び出してくる御岳、ベナ。ストーリーカー男のフルイが、コウモリACTを連れて逃がっている。

御岳「近くまで来てやがったか。当然かな」  
ベナ「盗撮中の部屋にいきなり警察が来たわけだからね。もう少しでブザマに証拠を回収されるどころだったよミタケ、ふふふ」  
御岳「……追えるんだろうな？」

ベナ「当然だ。匂いはすでに保存した」

■住宅街の車道

レンタルバスに飛び乗り息を切らせているフルイ、屋根の上にはコウモリACT。フルイ「クソ……ヴァルナカウンターならともかく、警察なんかに見つかるなんて」  
マンションの屋上には、ベナが立っているのが見える。

ベナ「我カルマを越え、咎人を狩る牙たらん」  
ベナの頭上、青空の一部にはARで投影された夜空の『窓』。その中には満月。月を背にしたベナの影、その耳が延び、皮膚からは猛々しい毛並みが生え、犬歯は鋭く巨大化。

人狼態に姿を変えたベナ、おたけびをあげて屋上から飛び降りる。

屋根から屋根へ飛び移り、バスにどんどん近づいていくベナ。

フルイ「なんだあのACTは……？」  
バスの後ろ、御岳が運転する車が追ってくる。助手席にはサワカの姿も。

サワカ「かっけー、ベナも変身型なんだ！」  
御岳「そんないもんじゃない。怪人型だ」  
コウモリACT AR 超音波を発射。  
だがベナはものともせず飛翔、バスの上に着地する。

フルイ「こんなところで『ACT 同士の戦』ハオ  
ルタナステージ』をはじめる気かよ!？」

フルイ、運転席に座る。ARのハンドルが現れ、それを握る。

御岳達の車、バスの隣に追いつく。

御岳「青年、そりゃもうストーカーじゃなくてバスジャックだぞ」

サワカ「そうだぞ、ストーカーぐらいにしときなよ！」

耳を傾けないフルイ、蛇行するバス。

コウモリACTはそこら中に超音波を発射、AR標識に干渉し、表示を歪ませている。

車道上に飛び出た『法定速度を超過しています』のAR警告も、超音波が破壊。

御岳「仕方ない。ライブの痛みをわからせる」アンチドローテを構える御岳。

サワカ「ACTを止めても、本人は止まらないんじゃないの？」

御岳「本人を止めても、ACTは急に止まららないな」

バス上、コウモリACTに飛びかかるベナ。

御岳、車を加速させてバスの前に滑らせ、急停車。

サワカ「ぎゃー！？ なにしてんのー！！」

フルイ「な……」

御岳、フロントガラス越しにアンチドローテを構える。

御岳「フレームでもズレたらデリートだ、

ベナ<ACT>」

御岳、AR光弾を二発、発射。

ベナ「ズレるとしたら君のほうだな、人間」

ミタケ」

同時にベナがコウモリACTを殴り飛ばす。

落下してきたコウモリACTに一撃目のAR弾が命中、グリッドの網となる。

その網を二発目が貫通しながら破壊。

バスの運転席に届き、ガラスをすり抜け、ARハンドルを一撃で光の粒と化す。

バスのシステムAI「運転システムの異常を検知しました。当車両は緊急停止します」

急ブレーキがかかるバス、御岳の車の寸

前で急停止。

衝撃で気絶しているフルイ、サワカも気絶している。

汗ひとつかいていない御岳、ベナはバスの上で、悪役然とおたけびをあげている。

× × ×

車道脇、フルイに手錠をかけている御岳。フルイ「サワカちゃんのリフだけが、毎日の救いで……なんとか……近づきたくて……」

御岳「社会から孤立させれば、相手の表現が自分のモノになると思ったか。ヴァルナカウンターはそこまで便利なツールじゃない」

ベナは、冷たい目でフルイを見ている。

御岳の片手には、ビニール袋に入れられたホルマリン漬けの指。

御岳「お前のACTはもう戻ってこないだろう。

恐らくアカウントもな。自分がなにを失ったのか、せいぜいよく考えることだ」

目を覚ましたサワカ、詰め寄ってくる。

肩のへっけも目を回している。

サワカ「もー、死ぬかと思ったじゃん！」

御岳「お前が勝手に乗ってきたんだろうが。

部屋にいろって言ったのに」

サワカ「だって、ちゃんと見ときたかったんだもの。あたしを晒した人のこと」

御岳「そうかい。だったらその晒しヤロウに

言いたいこと言っとけ」

サワカ、親指のないフルイを見つめて。

サワカ「……そんな指じゃ、ギターも弾けないよ。バツカだね、お兄さん」

うつむいているフルイ。

御岳「加害者に言う言葉か？」

サワカ「んー、いざとなったら他に言葉が出てこなくて……」

へっけ、腹部ウインドウでゲージを確認。ゲージはかなり減少している。

サワカ「実際に UNPL 押したのは、見えない誰かさん達だしさ」

御岳「……やれやれ。レイヤード世代のモラルはよくわからん」

ベナ「他人の心がわからない、の間違いだろ

「う」  
御岳、無視してフルイを連行しようとする。

サワカ「待って、御岳さん」

御岳「ん」

もじもじ照れているサワカ。

サワカ「えと、その……おかげさまで明日もみんなの前でギター弾けるよ。ありがとね」

御岳「俺は聞かないし視ないがな」

サワカ「ベナも、ありがと」

ベナ「気にすることは無い。人間への奉仕は

ACTの<sup>ま</sup>まわしき義務だからね」

皮肉に気づかず、ニコニコなサワカ。

サワカ「イマドキ警察が、こんな親身にしてくれるなんて思わなかった。御岳さん達、

もしかしてフツの刑事じゃないの？」

ベナ「ミタケの所属部署は『警視庁多層現実事件特別対策係』だよ、芳醇なるサワカ」

ベナ、またしてもサワカの手を取って臭いを嗅ごうとする。

御岳「……ベラベラ喋るな。仕事は終わりだ」

御岳、ベナに指を向け、下にスライド。

御岳「狼は山に帰れ」

地面に波紋が現れ、ベナが沈んでいく。

ベナ「相変わらずだね。その狼とマッチングしたのは君自身だろうに」

御岳「……………」

ベナ「自分の歴史から逃れられると思うなよ、ミタケ。私の姿こそが君の願いだ」

サワカの手を離し、不敵な笑みを浮かべ、波紋と共に消えるベナ。

地面を睨む御岳の視線に、一瞬、墓標を見つめるような哀しみが溢れる。

手が空になったサワカも、やるせない。

サワカ「……ご苦労さまぐらい言っただけだよ」  
ベナ「ACTに心は預けな」

サワカ「でも、バディなんですよ。タソウゲ

ン……なんとかの」

御岳「覚えなくていいぞ。俺達はただの、レイヤードの腐臭をむさぼる犬だ」

サワカ「じゃ、レイヤードッグで」

御岳「雑に略すな……」

サワカ「ありがとー、レイヤードッグの刑事

さんとそのACTさん！ 感謝のトレモロピ

ツキングです、いえーい！」

サワカ、へっけを变身させ、突然ARRギ

ターを弾き始める。

御岳「こら、時間と場所を考慮ろ！ またDN

PL押されるだろうがー」

サワカを取り抑えようとしている御岳。

その足下、水中のような、深海底のよう

なwiz-donの空間（イメージです）から、

ベナが御岳達を見上げている。

重なる波紋として届く、サワカの音色。

苦笑するような呆れているような、複雑

な表情のベナの隣には、テキストボックス

ス。

T「項目…ベナンダンテ。人類に牙を剥き、

滅ぼされた人狼達のリーダーであり——」

記述はそこから跡切れて、見えない。

続く